



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

J R東日本労働組合
発責 教育・広報部
2021年5月21日 No.318

夏季手当シリーズ⑥



経営状況を見極めた理性的な夏季手当要求である

私たち東日本ユニオンは2021年度夏季手当について、しっかりと経営状況を見極め「基準内賃金の2.8ヶ月分」とした理性的な要求を経営側に提出しました。

4月28日に発表した「2020年度期末決算」は、営業収益を半減させJ R東日本発足以来初の赤字となりましたが、貸借対照表からは負債（借金）を増やしながらも固定資産を大きく増やしていることが見て取れます。これは、赤字下においても設備投資を積極的に進めてきた結果です。

【2019年度】

(単位：億円)



【2020年度】

(単位：億円)



	2019年度	2020年度	差
減価償却費	3,074	3,212	+138

(単位：億円)



赤字決算に伴い、純資産を5,371億円減少させ、資金調達などにより負債を8,692億円増加させた一方、設備投資などを通して「固定資産は3,280億円も増加」させています。その結果として損益計算書における費用では「減価償却費」のみを増大させているのです。

J R東日本は赤字下といえども、将来の収益確保に向けて設備投資には借金をしてでも惜しみなく資金を投入しています。この力強い経営体力に自信を持ち、J R労働者に対しても「安心して生活するための要件である賃金・手当」としての投資＝夏季手当満額回答を求めていきましょう！

J R労働者の力の結集を通して満額回答を勝ちとろう！